



ふれあい

●発行日 平成21年10月1日
 ●発行者 広報委員会
 ●編集責任者 中谷 正男
 ●編集 三原赤十字病院
 三原市東町二丁目7番1号
 TEL. 0848-64-8111
 HP <http://www.mihara.jrc.or.jp>

「災害時に備えています。」

三原赤十字病院は、災害拠点病院に指定されており、災害時にいつでも出動できるよう、医師・看護師・薬剤師等7名の職員で編成する救護班を2班整備しています。救護班要員の技術や知識のレベルアップを図る目的で、県内各地で実施される「航空機事故」や「列車事故」を想定した防災訓練に参加しています。また、病院独自で実施する訓練や被災者の方々の「こころのケア」などの研修についても、計画的に行っています。



▲列車事故



▲航空機事故



▲救護班要員の訓練模様▲

さらに、当院では災害時にいつでも「救援物資」を配布出来るよう、緊急セットや毛布等の備蓄も行っております。毎年開催されている「三原健康・福祉祭り」において展示したり、「神明市」での赤十字フェアでご紹介しています。緊急セットには災害時に必要な物品が、ぎっしりと入っています。今年も7月後半から、国内外で豪雨による災害が頻繁に起こりましたが、7月23日の山口県豪雨災害には、当院の備蓄の中から毛布を送付しました。



▶毛布



緊急セット(赤いバッグ)の中身

マスク・歯ブラシ・毛抜き・風呂敷・携帯ラジオ・懐中電灯・チャックポーチ・メモ用紙・ブックレット・挨拶状・タオル・ウエットティッシュ・ポケットティッシュ・軍手・ゴム手袋・ビニール袋・コップ・スプーンフォークセット・物干しロープ・洗濯バサミ・救急絆創膏・弾力包帯・ガーゼ



理念

「三原赤十字病院は人道・博愛・奉仕の赤十字精神に基づき、地域社会に密着した医療を提供します」

基本方針

1. 患者さま中心の医療の提供
患者さまの基本的な人権を尊重し、説明と同意に基づく良質な医療を提供します。
2. 地域医療との連携強化
地域における中核病院として一貫した医療を患者さまに提供できるように地域の医療機関との連携強化に努めます。
3. 救急医療と災害救護活動の実践
医療の原点である救急医療の充実に努めるとともに、災害救護活動など社会活動に積極的に貢献します。
4. 職員相互の信頼と協調
病院職員として自覚をもって研鑽に励み、病院と共に成長する明るい職場を推進します。



こんにちは

“臨床検査部”です



検査部には、検査部長（医師）1名、病理医（医師）2名、臨床検査技師11名が在籍しています。

検査部は、検体検査、生理検査、病理検査を担当しており、24時間の検査対応、すみやかな結果報告を行っています。また、検査データの精度を上げるために、検査機器のこまめなメンテナンスを行っており、技術の向上及び知識の習得のため、検査学会や各種セミナーへ積極的に参加しています。



検体検査

検体検査とは、血液・尿・便・痰など身体から採取又は排泄されたものを対象とする検査です。正確なデータをすみやかに報告するため、検査の依頼・測定・報告の過程をバーコードで管理しています。検査のほとんどは、検体が届いてから30分以内に報告しています。



生理検査

生理検査とは、心電図・脳波・超音波のように身体が発するわずかな信号を記録したり画像化する検査です。



病理検査

病理検査には細胞診検査、生検組織検査（※1）、手術で摘出された臓器の組織検査（※2）、手術中の迅速組織検査、病理解剖等があります。これらの検査は病理医が行い、病気の診断その進行の度合い、治療法の決定、手術範囲の決定、治療効果の判断など、患者様と深く関わっています。患者様が適切な治療を行うためには、適切な診断が必要です。病理診断は最終診断として重要な役割をします。病理検査はこの診断のための一連の検査です。



（※1）生検組織検査：治療方針を決める為に、胃・大腸・肺等の内視鏡検査を行った際に、病変の一部を摘み取りその一部を組織標本にして検査します。

（※2）手術材料の組織検査：手術で摘出された臓器の組織検査
摘出された臓器・組織は病理医が肉眼で病変部の観察をして、診断に必要な部分を切り取り、臨床検査技師がこの臓器・組織の顕微鏡標本を作り、病理医が標本を観察しどのような病変がどのくらい進行しているか、手術で取りきれたのか、転移の有無など治療方針に役立つ情報を臨床医に提供します。

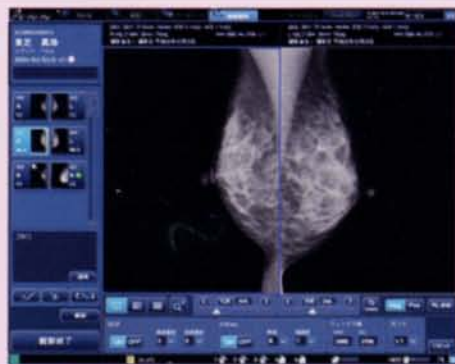
おわりに

血液検査(採血)を受けられる患者様へ……

検査結果には採血直前の食事が大きく影響する項目があります。より正確な結果を得るためにも、当日朝の食事は控えて、来院して頂きますようお願い致します。



乳がん検診の受診率向上に寄与できる 放射線課 “女性に優しいマンモグラフィ”を導入しました



モニター画像

FPD搭載デジタル
マンモグラフィ装置
ペルル(Peruru)
[MAMMOREX Peruru MGU-1000A]
東芝メディカル
☆「=Pe·ru·ru」は、フランス語で
真珠(perle)の意味。健康、長寿、
清潔感、幸福をあらわします。

直接変換方式FPDの採用により以下の特徴があります。

被ばく線量の軽減

従来のもよりX線エネルギーの変換効率が高い為 被ばく線量が少なくなりました。

高鮮鋭な画像

乳房を透過したX線を直接電荷に変換し画像データを収集します。このため、各個人の乳房組織に適した画像を作成することができます。また微細石灰化や腫瘍などをシャープに描出できます。

検査効率の向上

撮影後約7秒で画像の確認ができ、次の撮影が30秒以内で開始できます。従来方式に比べ撮影時間が短縮されました。

『乳がん』の発症率・死亡率は年々増加し、現在日本人女性の約25人に1人がかかる最も多い“がん”です。早期に発見すれば治癒率の非常に高い“がん”ですが、毎年1万人以上の働きざかりの女性が命を落としています。「多くの方に乳がん検診を受けていただきたい」職員一同の願いです。

※乳房撮影(マンモグラフィ)は女性技師2名が担当し、落ち着いた雰囲気での撮影を心がけております。

健康食 レシピ

秋色混ぜずし

秋も深まり、新米の美味しい季節になりました。

「混ぜずし」は、その地域ならではの形で郷土料理としても広く親しまれている日本食の代表です。節目のお祝い事や来客の時など、どんな場面でも喜ばれる料理です。

また、お酢に含まれるクエン酸には食欲増進や疲労回復の効果があります。

ぜひ、ご家庭で作ってみてください♪



材料(2人分)

- 米(黒米入り) 2カップ
- だし昆布 適量
- 干しいたけ 3枚
- ごぼう 80g
- 人参 60g
- 焼き穴子 30g
- 醤油・砂糖・みりん 各大さじ1
- 合わせ酢(酢1/4カップ・砂糖 大さじ1 1/2・塩 小さじ2/3)
- 卵 2個
- 塩、油 各少々
- 青じそ・いくら・すだち 各適量

作り方

- ① 出し昆布を入れてごはんを炊きます。
- ② ごぼうはささがきにして水にさらし、人参はせん切りにします。干しいたけは水でもどし、薄切りにします。
- ③ 鍋にごぼう・人参を入れ、醤油・砂糖・みりん 各大さじ1で煮ます。干しいたけは別の鍋で煮ると美味しく仕上がります。
- ④ 卵に塩を加え、薄焼きにし、錦糸卵を作ります。青じそはせん切りに、すだちは半分に切り薄くスライスしておきます。
- ⑤ 炊きあがったごはんをうちわで少し冷まし、合わせ酢をまわしかけ、切るようにして混ぜます。そこに③と刻んだ焼き穴子を加えて混ぜあわせます。
- ⑥ 器に盛り、錦糸卵、青じそ、いくら、すだちを散らし出来上がりです。